

ルクレシア・デ・レオン

——16世紀スペインの夢と政治——

- R・L・ケーガン(立石博高訳)『夢と異端審問——16世紀スペインの女性』(松籟社、1994年)
 - 異端審問所史料の活用——ミクロストリアの可能性
1. ルクレシア・デ・レオンの育った環境
 2. ルクレシアの成長
 3. 夢予言の記録
 4. 「目を閉じると、私は目覚める」
 5. 異端審問所による裁判
 6. ルクレシアをどう理解するか

○異端審問所史料の活用——ミクロストリアの可能性

- ス페인異端審問所と審問史料
- 1970年代までの異端審問制研究
 - 政治・制度史研究
 - 魔女の歴史
 - 国家の「統制」の道具／民衆文化
- 1980年代からの異端審問研究
 - 異端審問制そのものの機能
 - 民衆宗教、民衆文化のあり方
 - ジェンダー、セクシュアリティ
- ミクロストリアの可能性
 - 「権力」——「民衆」の関係の顕在化

※時代状況を伝える立体的歴史像の構成。新たな「歴史叙述」の可能性。



夢と異端審問

一六世紀スペイン
の女性

R・L・ケーガン著
立石博高訳

松 籟 社

R・L・ケーガン著 立石博高訳

夢と異端審問

——一六世紀スペインの女性——

松 籟 社

LUCRECIA'S DREAMS

POLITICS AND PROPHECY
IN SIXTEENTH-CENTURY SPAIN

定価2600円(本体2524円) 松籟社

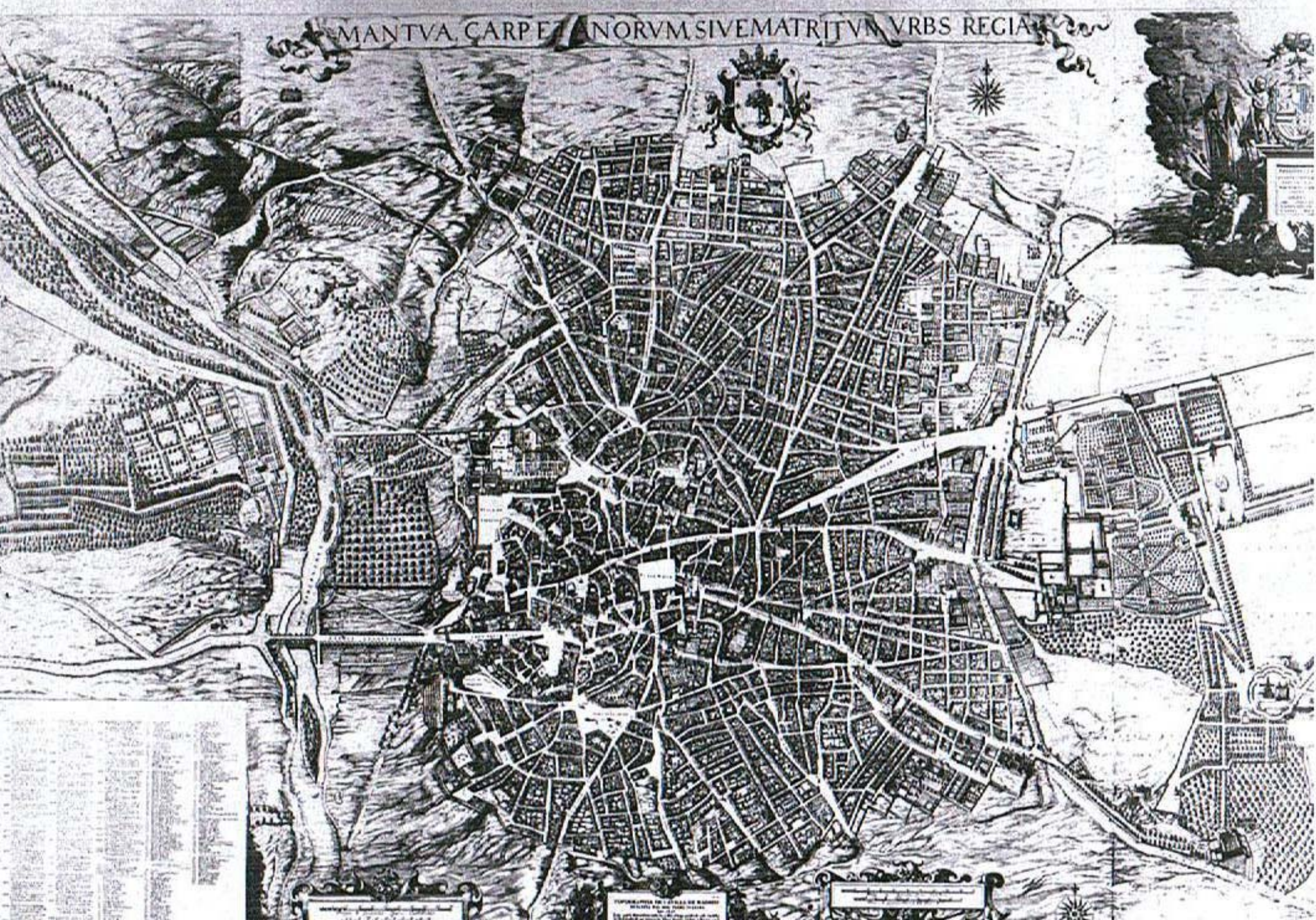
ISBN4-87984-998-7 C3022 P2600E

(1) ルクレシア・デ・レオンの育った環境

- 1567年10月にマドリードで生まれる。
 - 父親、アロンソ・フランコ・デ・レオン
 - ジェノヴァ人銀行家を顧客とする事務弁護士。バルデペーニャス出身。
 - 母親、アナ・オルドニェス
 - ラ・モンターニャ出身。 ⇒ [スペイン地図](#)
 - ルクレシアは長女。その後10年の間に、両親はさらに4人の子供をもうける(アナ、マリア、マリア・マグダレナ、アロンソ)。
- サン・セバスティアン教区サン・サルバドル通り(アウグスティノ会マグダレナ修道院側面入り口の真向かい)
 - フェリア公爵夫人所有の建物の1階、「カサス・デ・マリシア」のひとつ。
 - マヨール広場の近く。この教区には、さまざまな諸階層が居住。商店主、職人、役人、貴族、作家(セルバンテス、ロペ・デ・ベガ)、など等。

- ラ・マグダレーナ修道院(売春婦の改悛)、教区教会
- アントン・マルティン広場(施療院)
- プリンシペ通り(劇場)
- 中流市民の慎ましい生活
- ルクレシアの幼少期についてはあまり分らない。
- 父親の職業のために、さまざまな階層の人々に出会えたであろう。
 - ジェノヴァ人銀行家——フェリーペの経済政策への批判
- 父親は仕事で家を空けることが多かった。
 - 母親と二人で、あとの4人の子供の世話。(「夢」のなかの父親批判——十分な稼ぎをもってこない。十分な婚資を出せない。)
- 父親は、ルクレシアの夢を公言しないように叱る。
 - 異端審問所への恐れ。家族と仕事への差しさわり。
- 母親との関係はより良好。
 - 夢のことは、あまり気にせず。
 - 聖職者・宮廷人が夢の転写を始めると、ルクレシアにそれを奨励する。
⇒1588年2月、ルクレシアが夢の転写が行なわれるのに気が進まなくなるが、アナは懼れることはないと鼓舞する。

MANTVA CARPET NORVM SIVEMATRI TVM VRBS REGIA





PLAZA MAIOR

CALLE MAIOR IV

CALLE DE TOLEDO

Puerta del Sol

Puerta de Guadalupe

Puerta Corrada

Plaza de la Villa

Plaza del C de Barajas

Plaza del Cordon

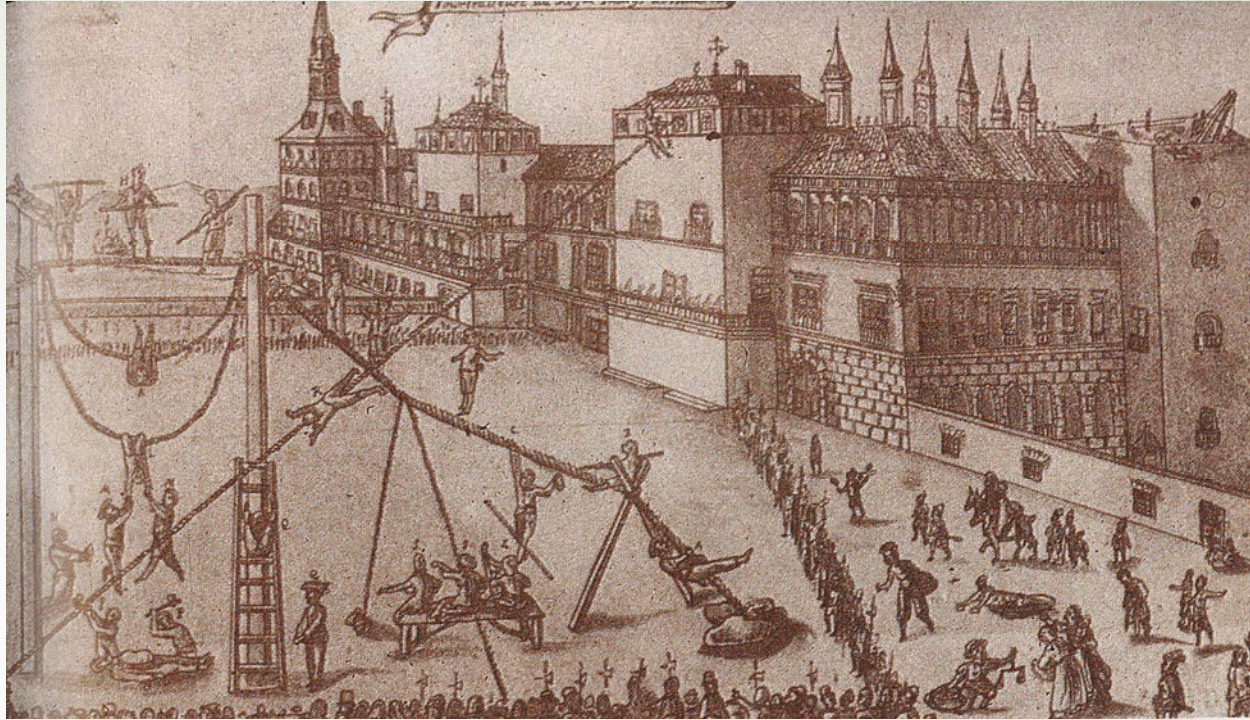
Plaza de la Leña

Plaza del Angel

Calle de la Madalena







(2) ルクレシアの成長

- 母親アナによる娘の教育——文字が読めない。カトリック信仰の篤さ。さまざまなマドリード近郊の聖堂・礼拝堂に連れて行く。
 - マドリードの地理・風物に詳しいルクレシア
（「夢」のなかに出てくるマドリードのさまざまな光景。マヨール広場の踊り手。アトーチャ通りの改悛者。マンサナーレス川で薬草を摘む女性たち、など等）。
- 18・9歳のとき、フェリア公爵夫人の口添えで、フェリーペ王子（のちのフェリーペ3世）の養育係のドニャ・アナ・デ・メンドーサに仕える。
 - 宮廷生活の一端を経験する。（「夢」のなかでの王宮の描写）
 - フェリーペ2世への反感——フェリーペは婚資を与えてくれると言ったが、その約束を守ってくれないという不満。
- ルクレシアの結婚願望
 - 他の幻視者（多くは修道女かベアタ〔半俗半僧の平信徒〕だった）とは異なり、強い結婚願望をもっていた。
 - 当時のスペイン女性は早くに結婚した。20歳をすぎてもその可能性がなかったことは、彼女にもその両親にも心配事であった。

- このことは夢にも反映した。
 - ・〔ある夢〕預言者になりたいかという問いに、「私は結婚したいんです。」と答える。
【邦訳34頁】

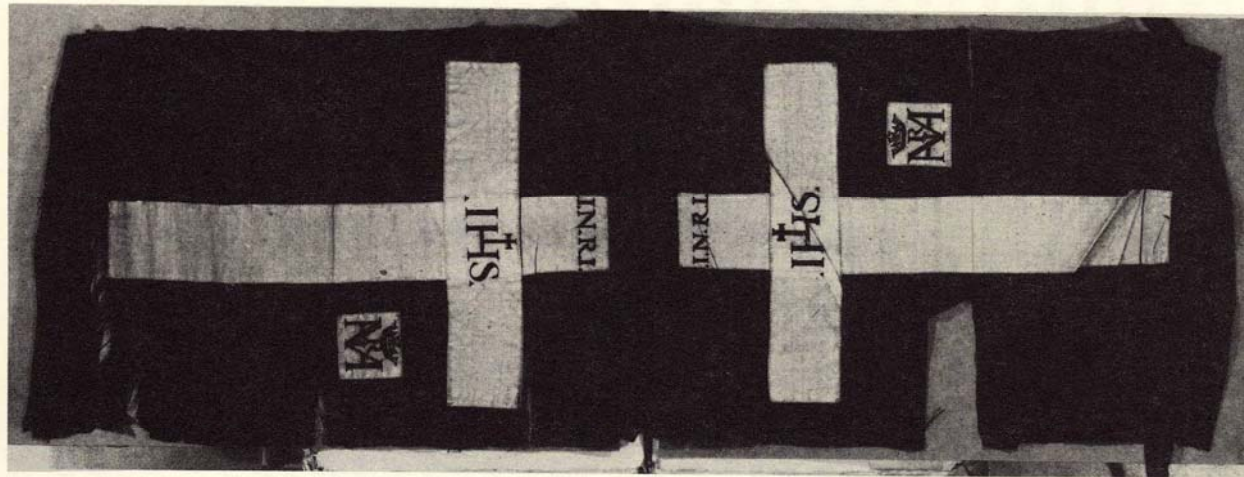
• ルクレシアの容姿

- (審問記録)髪は茶色で目は黒、顔色は青白い。
- ファン・エイクの描いたヘントの祭壇飾り画の複製(王室礼拝堂に飾ってあった)
 - ・ アナ・オールドニエスの言葉:「まあ、ルクレシア、見てごらん。あの人(イブ)の身体はなんてあなたに似ているんでしょう、……とくに首から下なんか！」

• 「ルクレシア」に関する自分自身の描写と他者の描写

- 無知か狡猾か、純朴か大胆か。
- ディエゴ・デ・ビトーレス(聴罪司祭ルカス・デ・アリエンデ師の書記としてルクレシアの夢を記録)との関係(「婚前交渉」)。1590年2月の「約束」、妊娠。1590年夏の終わりに女子を獄中で出産。
 - ・ 〔ある夢〕庶子の母親となる恐れ 【邦訳36頁】

- スペインの将来に関わる夢をみる若い女性の評判
- 宮廷人の集まりで、自分の夢の内容を語るルクレシア
- 兵隊預言者ピエドロラの夢予言とその信奉者たち【邦訳146-156頁】
 - 「1588年の大事件」——そのために「エスペルンサ」の洞窟をつくる。
- ルクレシアへの崇拝【邦訳190-199頁】
 - フアン・デ・エレラの設計した「ソペーニャ」洞窟。
 - 「復興の聖十字」信徒会とその肩衣



Cloth scapular. Archivo Histórico Nacional, Madrid. This simple black garment emblazoned with a white cross was fashioned after a scapular Lucrecia envisioned in her dreams. Lucrecia's followers wore it beneath their ordinary clothing as a symbol of their belief in her millennial vision of Spain's future. The Inquisition seized several of these garments for use as evidence against Lucrecia and later bound them into the registers containing the transcript of her trial.

• 王権の介入

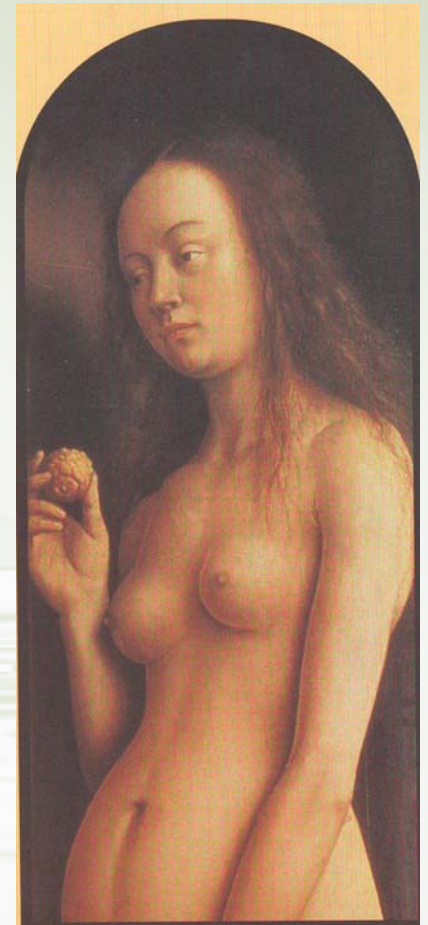
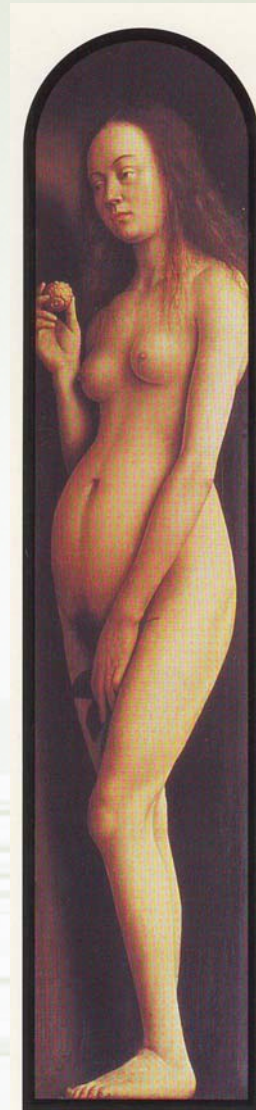
- 1588年の無敵艦隊敗北以後の王権の弱体化
 - カスティーリャ経済の悪化
 - 増税による不満
- アントニオ・ペレスの逮捕と、彼のアラゴンへの逃亡(1590年4月)。
 - ペレス支持者には、ルクレシアの信奉者が多かった。その一人が、マドリードのフランシスコ会修道院院長ルカス・デ・アリエンデであった。
- ⇒フェリーペ2世は、異端審問所を利用してこれらの者の抑圧に向かった。



Alonso Sánchez Coello, *Philip II*. Museo del Prado, Madrid. This portrait, dating from around 1580, depicts Philip dressed soberly in black, adorned only by the insignia of the Order of the Golden Fleece—symbol of his commitment to the defense of the Catholic religion. In contrast, Lucrecia's dream portraits of Philip portrayed him as a decrepit monarch who "tyrannized the poor" and "impoverished" his kingdom.



-ルクレシアの容貌(「ヘントの祭壇飾り画」に似る)



兵隊預言者ピエドロラ

ーミゲル・デ・ピエドロラ・ベアモンテ、「夢」の予言

→(その仲間)アロンソ・デ・メントサ、ルカス・デ・アリエンテ、ギリエン・デ・カサオス
「エスペルンサ」の洞窟

1587年、カスティーリャ議会の調査委員会

ピエドロラを告発、宮廷の調査委員会:

異端審問長官ガスパル・デ・キローガ(トレード大司教)

国王聴罪司祭ディエゴ・デ・チャベス

国王施物分配吏ガルシア・デ・ロアイサ

* フライ・ルイス・デ・レオンの支持

司教代理やその他の者からの非難

→異端審問所による逮捕、1587年9月18日

1588年12月18日のアウト・ダ・フェ、宮廷からの追放刑

アロンソ・デ・メンドサ ／ルカス・デ・アリエンデ ／ギリエン・デ・カサオス

＜アロンソ・デ・メンドサ＞

ーメンドサ家

ー敬虔な慈善家としてのアロンソ、異端審問所のカリフィカドール、精神的 불안定、占星術・占い・夢
占いへの関心。

ーフェリーペを無慈悲と見る。エスコリアル建設

ー教会への税徴収問題 ⇔ガルシア・デ・ロアイサ

ー保守的(!)聖職者アロンソ

⇔王のトリエン公会議の布告(聖職者の教区在住を命令)違反、モリスコ追放の消極的態度

ー功名心 ⇔国王秘書官マテオ・バスケス、ロアイサ

＜ルカス・デ・アリエンデ＞

ーフランシスコ会修道院長、そのネットワーク、宮廷の内外。占星術と予言への関心

ーフェリーペへの不満。ペレスとの親交

＜ギリエン・デ・カサオス＞

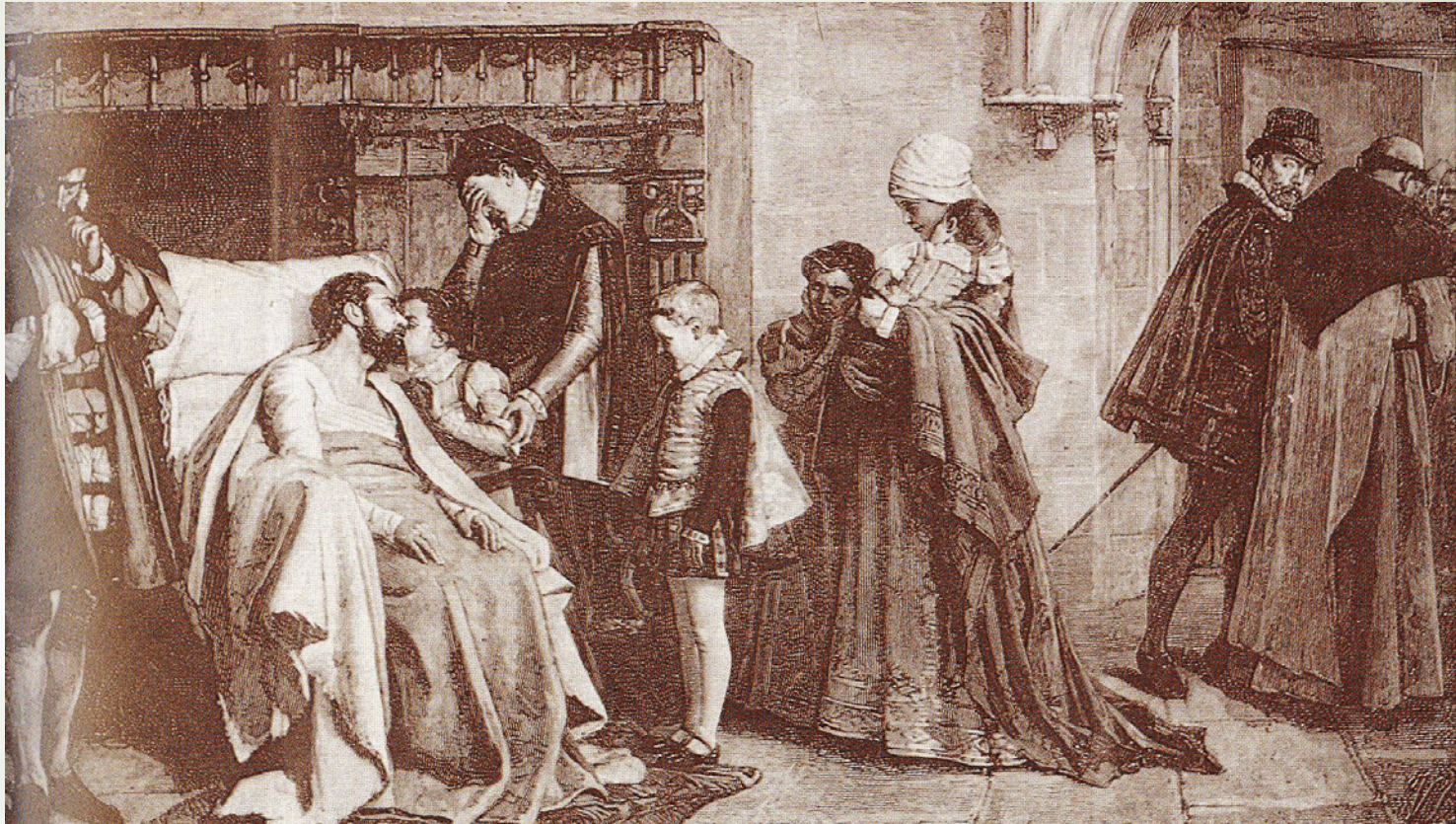
ー占星術師、前ユカタン半島総司令官、幻視を経験。ルカス・デ・アリエンデを聴罪司祭とする。

ー国王は彼の北メキシコ遠征計画を取り上げず。

ルクレシアの崇拝

- その後(1588年2月の司教代理の尋問後)、ルクレシアは病気になる、18ヶ月の間は殆ど夢を見ず。
- 支持者たちは、「ソペーニャ」建設に着手(ファン・デ・エレウの設計、物資購入)
- 無敵艦隊敗北の予言の「現実化」、一連の困難な出来事
 - ルクレシアの評判の高まり
- 1589年夏以後、「夢」の再開。宮廷名士としてのデビュー
 - : フェリア公爵夫人(フランシスコ会第三会員)のサロン
- ギリエン・デ・カサオスが「復活の聖十字」信徒会を設立(1589年9月19日)
 - + その肩衣
 - アントニオ・ペレスの同調者
- 異端審問長官キローガは、ルクレシアの逮捕を望まなかった。≠自由主義的人物
 - アントニオ・ペレスを支持 ⇔ 国王秘書官マテオ・バスケス、ロアイサ、チャベス(1594年、キローガは陰謀によって失脚、死亡)

拷問にかけられたアントニオ・ペレスを見舞う家族の図 (19世紀の版画)



1591年、サラゴーサの暴動



(3) 夢予言の記録

- ルクレシアの夢予言(予言的な夢)は12歳から始まったようである。
 - 1580年春、父親アロンソ・フランコにフェリーペ2世の妻アナ・デ・アウストリアの死を予言したと告げる。アロンソは、ルクレシアにそのような夢を見てはいけないと叱る。
- 成長とともに、ルクレシアは人々に自分の夢を語るようになり、それが評判になって人々が集まるようになる。
- 1587年9月、ルクレシアは奇妙な夢を見たと親戚の一人に語る。
 - ピエドロラ(夢予言で取り調べ中の人物)と思しき人物が口からコムギとミルクを吐き出している。

⇒この親戚は、トレード大聖堂参事会員アロンソ・デ・メンドサ(夢予言に関心をもち、ピエドロラを擁護し、国王に反感を持っていた)に仕えていた。

⇒メンドサはルクレシアをマドリードの自分の館に呼び、その夢の内容を語らせる。そして、メンドサはルカス・デ・アリエンデにルクレシアを面会させる。

- メンドサはアリエンデと相談し、その夢が神に由来するかを知るために、筆写することにする。
 - メンドサ自身、ルクレシアの家を訪ねて筆記してる。
- ⇒「その年(1587年)の12月5日、私ことドン・アロンソ・デ・メンドサはこの娘に会いに行った。それは午前10時頃で、夢を見たかを知り、それを書き取るためであった。」
- ⇒ルクレシアは、後の異端審問裁判で、これは彼女にとっては告解であった、と述べている。そして、メンドサやアリエンデに、こうして夢を語ることが異端審問との問題を引き起こさないかを尋ねた、とも述べている。

ルネサンス期スペインの夢の文化

【邦訳59-71頁】

- 『オネイロクリティカ』
- 市井の夢判断
- 「悪魔の夢」
- 「神の黙示と幻視」



「ヤコブの夢」(リベラ作、1639年)

街頭預言者

【邦訳132-135頁】

- － 予言の社会的行為。宗教上のもの。世俗的なもの。成就予言。抗議の予言。
 - － 街頭予言、市井の予言の伝統。コムニダーデス反乱、ヘルマニーアス反乱
 - － 1580年代の街頭予言の高まり。王国の経済的・政治的困難。
 - ファン・デ・ディオス：王政そのものへの不満の表明
 - アントニオ・ペレス問題
 - 税負担、王国防衛・統治の無能
- ⇒ 兵隊預言者ピエドロとその支持者

アントニオ・ペレス問題

- 1578年4月、フアン・デ・エスコバドの暗殺事件。
- 1585年2月、ペレスの逮捕。1586年3月、自宅軟禁。1590年初め、再逮捕。
- 1590年4月、判決が下される前にサラゴサに逃亡。
- 1590年7月、サラゴサで暴動
- 1591年、ペレスは国外へ。

ペレス、メントサ家、ジェノヴァ人銀行家グループ、

ガスパル・デ・キローガ

⇔チャベス

※ペレスへのマドリッド市民の支持、フェリーペへの不満

夢の記録

<夢の数>

- 1587年12月～1588年3月、一ヶ月に30あまりの夢
司教代理による軟禁措置(1588年2月)、病気(1588年3月)
- 1588年5月～(18ヶ月)、低い水準
- 1590年3月～、急速に増える
- 1590年5月、異端審問所による逮捕

<夢の記録>

- 「ルクレシアの夢」の記録(1590年5月21日に異端審問所が押収、アロンソ・デ・メントサの住居で)
- 全てで415の夢:13冊のノート(1587年12月1日～1590年4月18日)、その他の夢の記録文書(1587年9月～)
- 複本(「夢の主要事項のアルファベット順一覧表」)=1587年12月1日～1590年5月15日

(4)「目を閉じると、私は目覚める」

ー筆記された夢の特徴

- ・ルクレシアの年代と素性にふさわしいもの
- ・予言的語彙(ルクレシアはミサや説教を聞いている)
- ・3人称から1人称へ＝「神の夢」のスタイル
- ・様々なイメージの混交

<構造——教訓的な夢>

- ー夢における案内人＝指導者、「いつもの人」、「歳とった漁師」(「ライオンを連れた人」)、「若い漁師」。夢の解釈者
- ースペインの崩壊、国王の無能 (例)1590年3月10日の夢
- ー外国への訪問
- ー徴税、聖職者
- ー「ミゲル」、ルクレシア自身 【邦訳121頁を参照】

<スペインの崩壊>

- 【邦訳116-130頁】

- 無敵艦隊の敗北を「予言」
- 国内の混乱、モリスコの反乱、モーロ人の侵略
- 征服後の再征服、「ソペーニャ」、最後の王国
- フェリーペの大臣たちの腐敗：キローガ、チャベス、ロアイサを含む。
- フェリーペ批判
 - ・ 非情さ
 - ・ エル・エスコリアル宮殿の建設と税負担
 - ・ ドン・カルロスの死
 - ・ 西ゴート王ロドリゴの再来

一五九〇年五月二五日、異端審問所の役人が、ルクレシア・グ・レオンを逮捕してトレードでの裁きに付すために連行しろという指示を受けて、彼女の家にやって来た。異端審問の手続きに従って、役人はルクレシアにはなぜ彼女が捕らえられるのかを告げなかった。しかし、当時二一歳であったルクレシアには、いくつかはすでに手書きのコピーとして数か月前から公けに広まっていた彼女の夢に異端審問所は煩わされているのだと分かっていた。

ルクレシアが筆記のために口述した何百もの夢の中で最も最近のものは、五月一三日の日曜の午後の昼寝の間のものであった。その夢は、彼女の夢にいつも現れる三人のうちの一人がやって来るところから始まる。彼は、眠っているルクレシアを起こして、近くの通りに彼女を連れていく。そこでルクレシアは、三頭の牛に引かれてゆっくりとマドリードの町を練り歩く大きな行列の山車を見る。山車は、片手に槍、もう一方に球を持ち、白いゴートをまとった男の大きな大理石の像を乗せている。像の頭上には、帽子の代わりに鳩が配されている。像の口は鏡で、星がその目となっている。この奇妙な人物の両側には二人の少年がいる。一人は、茶色のゴートを着て、ワインの瓶を持っている。もう一人は、普通僧侶たちが身につける長い白い祭服を着て、手には何も持っていないが、以前の夢に出てきたときは彼は羅針盤と定規を持っていた。ルクレシアは同伴の男にこの少年たちは何を表しているのか尋ねる。男は、茶色の服の

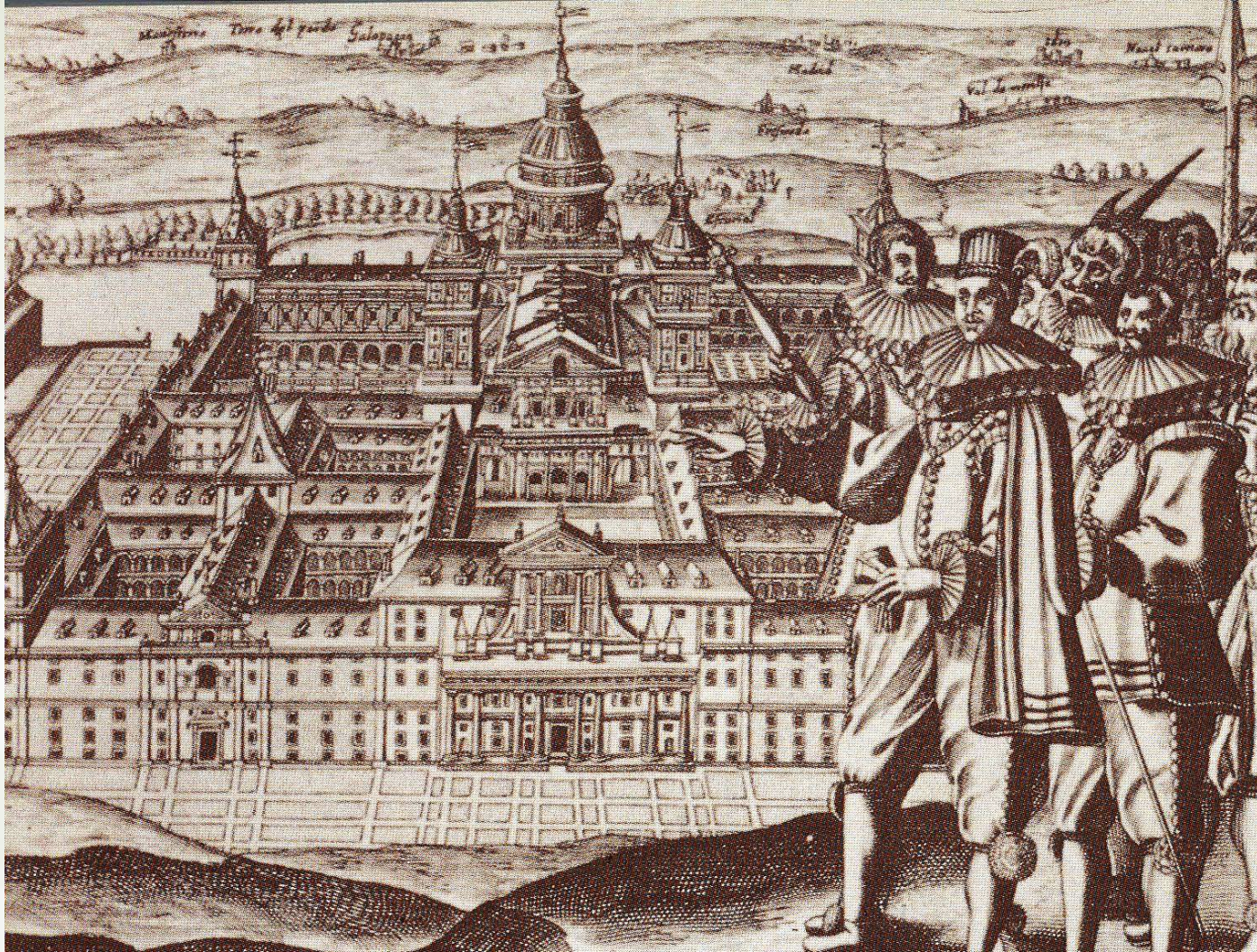
少年は愛の、白い服の少年は貞潔の象徴であると答える。彼は続けて、後者はスペインの「悪しき羊飼いの許した」「自由（盛衰）」が間もなく終わることの印である、と言う。ルクレシアは次に、二人目のいつもの夜の訪問者である老人に出会う。山車が通過するときには跳きながら、彼は天に向かって手を差し伸べ、「神よ、神に祝福あれ、そして、王たるべき者が王であり、教皇たるべき者が教皇であり、農夫たるべき者が農夫であるこの時に祝福あれ」と叫ぶ。ルクレシアの夢のいつもの訪問者三人組の最後の一人である若い男がここで現れる。彼はルクレシアに来たるべき審判の日について教え、国王フェリーペがもう少し敬虔であったならば、神の罰は避け得ただろうと断言する。しかし、今は、「天国を構えた神の天使は必ずやって来るが、その後、地上が永遠に悲嘆にくれることのないように、神はもう一人の天使を遣わされ、……そしてこの天使がわれわれの苦しみを払い退け、敵を打ち破り、鎖を解き放つだろう」と告げる。さらにいくつかの優しい賢者の言葉の後で、夢は終わり、ルクレシアは目覚める。

フェリーペ二世は無責任な王だということを示唆するこの種の夢が、ルクレシアの逮捕の紛れもない理由であった。しかし、カトリック・ヨーロッパのいたる所で、非政治的な予言者や幻視者も迫害されていたことは想起しておくに値する。宗教改革以後、ローマ・カトリック教会は、更なる異端の出現を恐れて、個人的な宗教的表現のほとんどの形態を排さえつけようとした。異端者、奇人、宗教的忘我に陥る人など、かつてはかなり寛容に扱われたこれらの人々も、今や厳しい監視と統制の下に置かれた。この監視がどこよりも厳しかったのがスペインで、その異端審問所と役人の小部隊が人々を事細かに見張っていた。一五二〇年代と三〇年代に、異端審問所は冷徹にアルンプラード（光明色）の者たちを迫害した。アルンプラード

無敵艦隊の敗北（1588年8月）



エル・エスコリアル宮殿兼修道院を眺めるフェリーペ2世





イサベル・クララ・エウヘニア(フェリーペ2世の娘)



(5) 異端審問所による裁判

- ー16世紀、女性予言者に対する不利な評価
 - 『本物と偽物の予言に関する書』(1588年)
- ーその信憑性⇔女性、宗教的献身、夢の形、扇動的メッセージ
 - テレサ・デ・ヘススの「知的な幻視」

<司教代理の裁判>

- ー1588年2月、国王聴罪司祭ディエゴ・デ・チャベス(ドミニコ会士)の予備調査
 - (→バルトロメ・デ・カランサ逮捕、アントニオ・ペレスの逮捕、ピエドラ攻撃)
- ー司教代理ファン・バプティスタ・ネローニの調査、2月13日にルクレシアを逮捕、尋問(10日間の軟禁)
- ー神学者ファン・デ・オレリャーナとディエゴ・デ・チャベスの進言:ルクレシアは単なる扇動者
- ーフライ・ルイス・デ・レオンの報告:「悪魔払い」を勧告
- ーネローニ自身の報告作成前に調査の中止。
 - ←アロンソ・デ・メントサの介入、教皇使節への上訴。他方、キローガへも書簡を送付。
 - :「神の夢」か「悪魔の夢」かの研究が必要
- ーキローガは、ルクレシアの釈放を命じる、但し、修道院への隔離を条件。
 - ⇔チャベス
- ー修道院隔離に対する両親の反対。

<ルクレシア崇拝>の高まり

⇒異端審問所の介入

- 1590年4月19日、アントニオ・ペレスがマドリッドから逃亡
- 国王聴罪司祭チャベスの策動：異端審問所コミサリオの情報収集
- 1590年5月8日、異端審問最高会議（スプレマ）の命令、5月18日に再度出される：トレード管区（異端審問）裁判所の異端審問官ロペ・デ・メントサに、アロンソ・デ・メントサの書類押収を命じる。
- 5月20日夜、「夢の記録」を含めた書類押収。アロンソ・デ・メントサは異端審問長官キローガ（トレード大司教）と国王に抗議の書簡を送る。キローガは、アロンソ・デ・メントサ支援を行わず。
- 5月25日、国王は、逮捕を許可。異端審問所による逮捕の実行。
 - 同日、ルクレシア、ルカス・デ・アレンデ、ビトーレスをマドリッドで逮捕
 - 翌日、ギリエン・デ・カサオスの逮捕
- 5月31日、全ての容疑者は、トレード異端審問所の牢獄につながれる。
- 6月4日、トレード異端審問所が公式に取調を開始。

<トレード異端審問所での裁判>



ートレード管区裁判所(トリブナル):管轄地域、裁判所機構。

取締官(ファミアル)、1562年にトレード市には70人以上(1596年には38人)

異端審問所、25人前後の官吏:3人の異端審問官(オイドール)、1人の検察官(フィスカル)、

1人の没収財産担当官、3人の書記官、数人の公証人、数人の助手

看守、警吏、補給係、助手

医者、数人の審査補佐官(カリフィカドール)=囑託

異端審問官と検察官の俸給は、聖職禄による。

その他に対しては、年間支出6000ドゥカード、没収財産で賄う

(1590年には、経費の3分の2しか賄えず:訴訟件数の推移)

ールクレシアの裁判の異端審問官:ロベ・デ・メントサ、ペドロ・デ・サラテ

／もう一人は、アントレス・デ・アラバ

ー「信仰裁判」の訴訟手続き:告発(デヌンシア)から判決(センテンシア)まで。

秘密裁判、「インクイシティオ」、「センテンシア・デ・トルメント」、アウト・ダ・フェ

#1590年6月4日、ルクレシアのアウトディエンシア(事情聴取)

→ルクレシアは、「無学な女性」として振る舞う。

ーギリエン・デ・カサオス、ディエゴ・デ・ビトーレスの潔白主張、単なる筆記者

ーアリエンは過ちは好奇心と無知から生まれたと弁明

ーアロンソ・デ・メントサは、逮捕自体の合法性を問う。「レクサシオン(不服申し立て)」を起こす。一方で、直接に教皇庁にこの逮捕の不当性を訴える。

→裁判の遅延、1590年7月～1591年9月 ／ペレス事件の処理

ー1591年9月、スプレマはトレードのトリブナルに巡察官を送る。ペドロ・パチエコ(ペレス裁判を担当)

ーペドロ・パチエコは、全ての容疑者、官吏、囚人を尋問。牢獄内の通信網を暴く。

更に、異端審問官たちが、ルクレシアとアロンソ・デ・メントサを厚遇していた事実をつかむ。

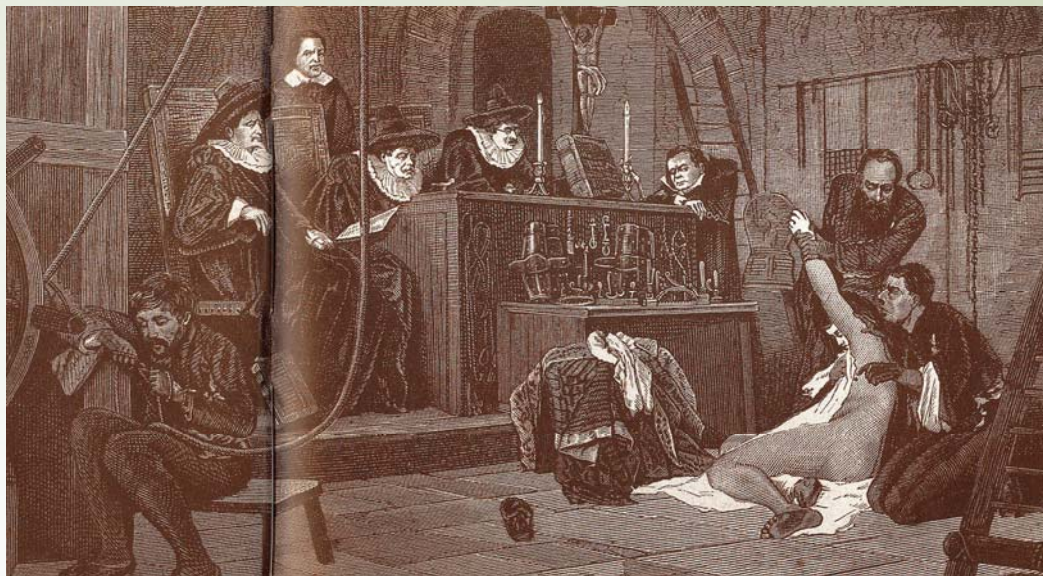
→「晚餐」、看守と囚人の親交、サラテとロペ・デ・メントサは、アロンソ・デ・メントサとたびたび面会

ー3人の異端審問官の停職措置、看守メンデス・デルナ、その他の役人も解任

ー囚人からルクレシアについての情報を収集

ー1591年11月4日、パチエコはルクレシアを改めて事情聴取

ー1591年12月7日、ルクレシアを拷問。多くのことを「自白」



ー1592年4月、パチエコはトレードを離れる。

ー新たな異端審問官、アントニオ・モレホン(やはり、ペレス裁判を担当)。もう一人は、ガスパル・デ・キローガ(異端審問長官の甥)。→二人の裁判官は、ルクレシアに同情を示さず。

ー検察官にペドロ・デ・ソカメニョ。

78項目の犯罪リストの作成

「悪魔との契約」(→悪魔的幻視)の罪状を加える。

ー審理の続行。告白ー抗弁の過程が2年以上続くが、告白を引き出せず。

Capitulo segūdo como el padre del
anticristo ha de requerir su misma
bija del pecado dela carne: y dende
ha de nāscer el anticristo.



Anticristo, siglo XV

マリア・デ・アグレダ尼 (1602～55)



ドニャ・メンシア・デ・セネーテ



Izquierda, *Doña María de Agreda* (de Weiditz, siglo XV) Española y Americana

aunque espiritualmente fuertes.

Sin embargo, para *melancholía* mujeres t visiones, ciones : cerdot

mentado una visión cidental que la misionarios arrestados en mujeres

- ー1595年6月にスプレマが、異端審問官に指示。
 - 「彼女が夢と呼ぶものが本当に夢であったのかどうか」→虚偽の場合の作意
 - 「それらは悪魔の幻想であったのか」→悪魔との契約の有無
- ー6月23日、再び拷問室へ。ルクレシアは、全ての仕業をアロンソ・デ・メントサに帰す。後で、いくつかの夢は自分のものだという。
- ー6月26日に、ルクレシアに対しての最後の事情聴取。個々の「夢」についての尋問。
- ーもう一人の異端審問官にメシア・デ・ラサルテ。

- ー1595年7月14日、異端審問官たちは「エン・ディフェレンシアス」で評決。
 - もう一月の審議の後、「アブフラシオン・デ・レビ」の判決とすることを決める。
 - スキャンダルを避けるために、アウト・デ・フェは非公開で、読み上げられる判決文も国王批判の記述を削除。
 - 1595年8月20日に実施
 - : 罪状朗読(扇動の罪、神への不敬、虚偽、神聖冒瀆、悪魔との契約)
 - : 刑の宣告(鞭打ち100回、首都からの追放、修道院での二年間の閉居)

ールクレシアは、一時的にサン・ラサロ施療院に収容される

＊その他の信徒会のメンバーの処置

ーギリエン・デ・カサオス、1595年10月に病死

ービトレス、1595年9月5日に判決：二年間の追放刑。後に故郷のサモーラに戻る。

ールカス・デ・アリエンデ、1596年3月に予審判決：修道院への閉居。後にシウダー・レアルに。

ーアロンソ・デ・メントサ、裁判所への異議申し立てを続行。1597年9月、最終的にスプレマは罪を二年間の閉居と決める。







(6) ルクレシアをどう理解するか

ー ルクレシアのその後。いくつかの可能性。

ー ルクレシアの物語をどう捉えるか。

*「社会的に限定された役割」の歴史の一つのエピソード

*ルクレシアの個人的野望や望み

：夢の中の想像世界

(学識ある占星術師、神聖なる予言者、国王の親友、アマゾネスのような戦士、国家の救済者、女王)

ー ルクレシアの「夢」による批判、権威への挑戦

←16世紀スペインの政治的・社会的意識

「夢は夢．．．」

「騎士の夢」(アントニオ・ペレーダ作、17世紀)



